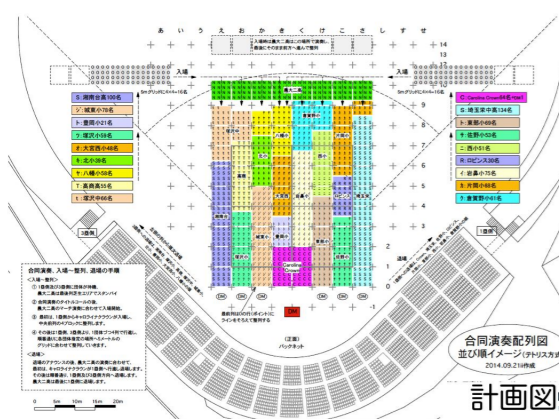
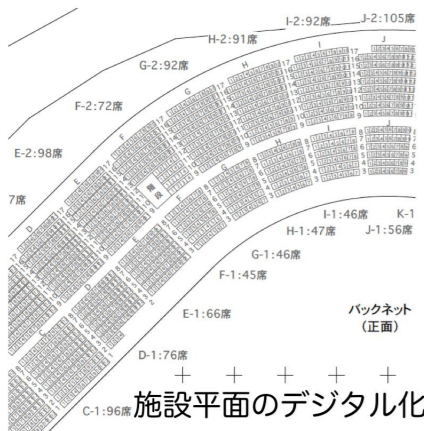


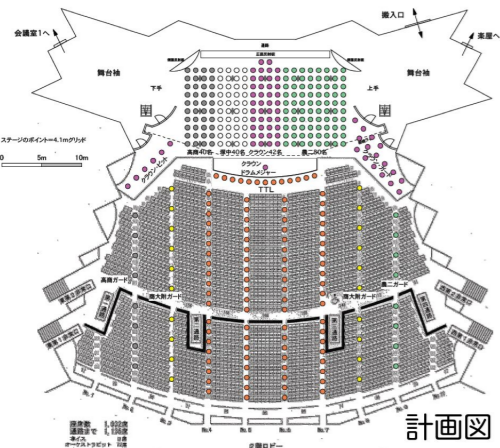


高崎城南野球場／フィールドドリル

城南野球場は昭和11年の施設であり、まともな図面を入手できませんでしたが、フェスティバルを実行する為に計画を書き込む正確な図が必要であり、球場の平面図を新たにCADで作成しました。



群馬音楽センター／ステージドリル



ステージと観客席の一体感を感じる音楽センターの素晴らしい空間を最大限活かそうと、観客席側にも出演者が列ぶ演奏・演出をおこなっています。

施設を市民の力で使いやすく

イベントの発展とともに座席指定が求められ、ベンチシートを手作りで指定席化しました。現況寸法を測った上で席割りの図面を描き、我々ボランティアの力ですべてのベンチシートに座席番号と仕切り線を張り込んでいきました。毎年これらメンテナンスも行っています。現在では高崎市施設のプレイガイドで座席図を見ながら販売できるようになっています。

フィナーレを飾る1,000人以上の合同演奏は、その入場や整列方法について入念な打合せを重ね、計画図を作成します。200カ所を超えるポイントをグラウンドに設置して、本番を迎えます。



シンフォニーロード／パレード

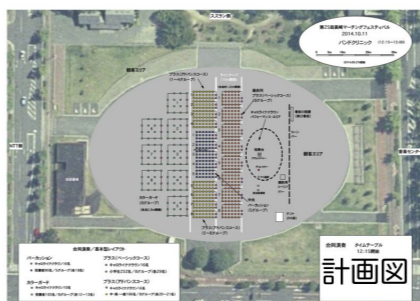
華やかなパレードの開催の裏方では延べ165人が沿道警備に関わっています。約50ページの沿道警備計画書を警察とも協議し、安全に運行できる体制を整えています。

またスタート地点のエアーアーチや特別観覧席なども設けています。

もてなし広場／クリニック等

もてなし広場は、パレード開催時は各団体の集合場所であり、バス・トラックの誘導と各団体スタート前の音だしと待機スペースとして活用しています。

さらに、25周年大会では海外招聘したキャロライナ・クラウンから直接指導を受けるバンド・クリニック会場として利用しました。



市役所前広場／街角コンサートの開催



トピック：アメリカのマーチングマガジンに8ページにわたって掲載

2014年は第25回記念大会としてアメリカのワールドチャンピオンであるキャロライナ・クラウンを高崎に特別招聘致しました。

彼らが帰国後、高崎での感動を伝えてくれたことから、アメリカで40年以上の歴史のあるマーチング専門誌に8ページにわたって「高崎マーチングフェスティバル」のことが掲載されました。



活動部門

まちづくり全般

高崎マーチングフェスティバル

-街のあらゆる空間を音楽ステージに-

高崎マーチングフェスティバルは、街のあらゆる空間を音楽のステージとし「音楽のある街高崎」を文字通り体現する市民運動です。金管楽器と打楽器による音楽とカラーガードなどビジュアルな動きの融合したマーチングは老若男女問わず多くの市民に親しまれ、街を明るく元気にします。

- 主な事業
- ・年5回のマーチング講習会の開催
- ・マーチングフェスティバルの開催

「街のあらゆる空間を音楽ステージにする活動」

音楽のある街たかさきの象徴である「群馬音楽センター」はもちろん、多くの市民が音楽を楽しめる場所として、街のあらゆる空間を音楽ステージとして活用しています。「街路空間」「野球場」「体育館」「市民広場」など、音楽・マーチングのステージにする為に様々な工夫を行い、計画図など実施プログラムの作成とともに実行しています。



応募代表者：飯井 雅裕

高崎マーチングフェスティバル協会
第2代理事長（2010年～2014年）

協会員：約90名
当日の市民ボランティア：約400名
出演者数：約3,000名
観客数：約4万人

第1回目の開催は1990年に高崎JCを中心に市民ボランティアの力で始まりました。1998年には「高崎マーチングフェスティバル協会」という独立した運営組織となりました。

メンバーは様々な職種の集りであり、その職能を横断的に活かしていることが組織の特徴です。さらに、市民と行政、学校そして企業や音楽専門家を横に繋げる役割を担うことでこの事業が実現しています。